衣座室御書

正嘉元年　三六歳

法師品に云はく「薬王其れ法華経を読誦すること有らん者は、当に知るべし、是の人は仏（仏とは如来なり）の**荘厳**を以て自ら荘厳するなり」と。

荘厳

- 戒聖行
- 定聖行
- 慧聖行

- 円頓戒
- 円頓定
- 円頓慧

玄義の四に云はく「文に云はく、如来荘厳而自荘厳とは、即ち円の聖行なり」と。法師品に云はく「如来の室に入り、如来の衣を著、如来の座に坐して、爾して乃し応に四衆の為に広く斯の経を説くべし」と。経釈に云はく「如来の室とは一切衆生の中の大慈悲心是なり」と。玄義に云はく「如来の衣とは柔和忍辱病行なり」と。法師品に云はく「如来の室とは即ち円の梵行の中の慈悲喜なり」と。玄義の四に云はく「如来の衣とは柔和忍辱病行なり」と。法師品に云はく「如来の座とは即ち円の梵行なり」と。玄義の四に云はく「如来の座とは即ち円の嬰児行なり」と。忍辱は即ち円の病行なり」と。玄義の四に云はく「如来の座とは一切法空是なり」と。

十信、十住、十行、十回向は、**二地已上**。

天行は、嬰児行病行は、五地の菩薩、天行の菩薩の示現なり。

別教

初地の五地

- 不動地
- 堪忍地
- 無畏地
- 一子地
- 空平等

- 戒
- 定
- 慧
- 慈悲
- 捨

- 聖行
- 梵行

初住の五地

- 不動地
- 堪忍地
- 無畏地
- 一子地
- 空平等地

- 円戒
- 円定
- 円慧
- 円慈悲喜
- 円捨

- 名字
- 観行
- 相似

日蓮花押